

# 特集 多文化共生

「多文化共生」(たぶんかきようせい) 国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと



## 多文化共生に向けた市の取り組み

市では、国際社会に開かれた誰もが住みやすい地域社会を形成するため「小林市国際化・多文化共生推進計画」を策定。また、本計画を実施するために、「国際化推進コーディネーター」と「国際交流員」を配置し、国際理解を推進するとともに、多様な文化、習慣を持った人々が互いに尊重し、共生していく多文化共生社会の実現に向けた取り組みを行っています。

### ◆市民の国際感覚の醸成

国際理解のための各種イベントや講座などを実施。

### ◆外国人市民への支援

外国人市民が安心して暮らせるよう地域日本語教室を実施。また、同じ地域に暮らす住民として日本人市民と外国人市民がお互いに理解を深め円滑に交流できるよう支援を行うとともに、外国人市民も積極的に地域活動に参画できるように環境の整備を行います。

### ◆国際化推進体制の構築

外国人市民のために、防災や生活情報について「やさしいほんご」や多言語での情報提供を市ホームページで行っています。今後は、観光・経済分野での交流拡大を図るための基盤構築を進めます。

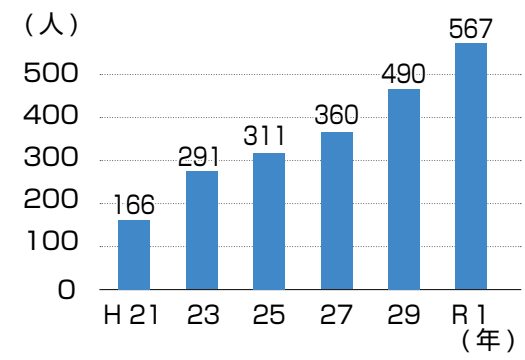


■異文化交流 異文化を紹介し、相互に学ぶ交流  
 ■地域社会参画 地域の避難訓練に外国人市民も参加  
 ■国際理解教育 国際交流員などの保育園・学校訪問  
 ■国際化推進体制 担当者が国際化の取り組みを支援

## 市の外国籍住民の現状

少子高齢化により、市全体の人口が減少するなか、本市の外国籍住民は平成21年の166人から、令和元年の567人と10年で約3.5倍に増加。市の人口の約1.2割が外国籍住民です。【図1】また、令和2年1月現在、宮崎県は「外国人前年比増加率」が全国1位であり、本市の外国籍住民の数は、県内でも宮崎市と都市に次いで3番目となります。

【図1】 小林市の外国籍住民の人数

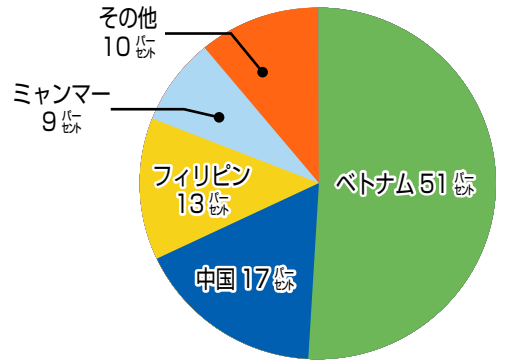


※図1・図2 「住民記録外国人国籍・地域別人員集計表」から作成

## 増加する外国籍住民の国籍と背景

本市の在留外国人は国籍別で見ると、ベトナム、中国、フィリピンの順で多くなっています。ベトナム国籍の外国人が増加している一因として、企業における外国人技能実習生の増加などが考えられます。「技能実習生」は技術と知識を伝え、本国に持ち帰ってもらうことを目的とした国際協力の一環ですが、平成31年4月には、外国人を労働者として受け入れる「特定技能」制度が施行されました。特定技能制度で働く外国人は、より長期的に住むことが可能と

【図2】 小林市の国籍別外国人の割合



なるため、今後、この制度を利用した企業の外国人採用が進み、私たちが外国人と接する機会も増えると考えられます。

**日本での生活を阻む3つの壁**

外国人が日本に住むとき、「言葉」「制度」「心」の3つの壁があります。これらは誤解や偏見からくるものもあり、外国人を見ると、つい身構えてしまいがちですが、これらの壁を取り払うために、簡単なわかりやすい日本語(やさしい日本語)で話しかけるなど、私たち地域住民も相手を理解し、お互いに歩み寄ることが大切です。

## 生活で困っていること心配なこと

- 言葉が十分に通じない
- 文化や習慣の違い
- 災害時の対応
- 病院のかかりかた
- 育児や教育のこと



※参照「小林市国際化・多文化共生推進計画」

## 小林市で生活する外国人に聞いてみました /

### 思いやり・助け合いの気持ちは伝わる



**李 妍 さん(堤)**  
 ケン 妍 さん(堤)  
 中国出身。大学で日本語教育を専攻し、卒業後県内企業に就職。結婚を機に小林市に移住。スーパーのアルバイトや翻訳業、市の日本語教室の教師などを務める。2児の母。

### 小林の印象は?

自然が豊かできれいな街です。晴天下の霧島連山は、風景画のようです。また、人も優しい方が多いです。近所の方から花や野菜をいただいたり、子どもと散歩中に挨拶や声をかけていただきます。しかし、産婦人科・小児科が少ないなど、医療環境に不便さを感じます。

### 日本に来て戸惑ったこと・困ったことは?

まずは言葉です。特に学校で習うことがなかった方言などは最初、聞き取れず苦労しました。もう一つは公共交通です。私の故郷ではバスはどの駅で降りても

一律料金ですが、日本では降りる駅で料金が変わります。時刻表と料金を理解するのに必死でした。

### 国籍や民族の違いを認め理解するためには?

中国には「求同存異」という言葉があります。お互いの相違点を認め、共通点を求めよう、という意味です。国籍や民族が違って「人間」としての思いやり・助け合いの気持ちは通じると思っています。



日本語教室で教師を務める李さん

## 相手を知ろう！ その一歩が多文化共生社会につながる

多文化共生は一方だけの努力では実現しません。国や言葉、文化の違いを双方がお互いを認め合い、理解することが大切です。その積み重ねが持続可能な多文化共生社会をつくります。いざという時には助け合う隣人として、あいさつなど日頃の交流から始めてみませんか。